

羽村市史編さんだより

平成 30 年 7 月
第 14 号

伸びゆくはむら

特集

草花丘陵にすむ動物たち

哺乳類編

2

- 1 News
- 3 部会の手帖
- 5 市史編さんの足あと
- 5 コラム「ちっとなべえ」



『羽村市史 資料編』2冊が完成しました！



▲刊行した『羽村市史 資料編』2冊

市史編さん室が発足してから4年。多くの皆様にご協力いただき、全8冊を予定している「羽村市史 資料編」のうち2冊が刊行されました。

今回刊行したのは「近現代図録」と「中世」です。「近現代図録」は、明治時代以降、第二次世界大戦後を中心とした羽村の文化やくらしの移り変わりなどを写真でまとめています。「中世」は、羽村市域を含む一帯を支配していた三田氏等の豪族の様子が見られる古文書や、市内に現存する石造供養塔の集成を掲載しています。

羽村市役所 1階受付と羽村市郷土博物館で頒布しています。価格は各2,000円です。

＜訂正とお詫び＞

『羽村市史 資料編 近現代図録』について、下の表のとおり訂正があります。お詫びいたします。

ページ及び訂正箇所	訂正前	訂正後
p. 25 <1-2-2-6>解説文	東方向	羽村駅方向
p. 40 3行目・<2-1-3-1>解説文	漆喰造り	漆喰塗り壁
p. 152 <3-4-2-1>解説文	601（推古天皇9）年と	601（推古天皇9）年の創立と
p. 190 1行目	その周辺の <u>小河川</u> に	その周辺の <u>用水路</u> や <u>玉川上水</u> に
p. 252 <5-1-4-2>解説文	同級生で、 <u>竹馬の友であった服部</u>	同級生であった服部
p. 259 <5-2-1-6>タイトル	<u>市内の忠魂碑</u>	<u>護国神社境内の日清日露戦役記念碑</u>
p. 267 <5-3-1-3>タイトル	旧 <u>西多摩飛行場</u> 兵舎	旧多摩飛行場兵舎
p. 268 <5-3-2-1>解説文	<u>西多摩飛行場</u>	多摩飛行場
p. 269 <5-3-2-4>解説文	<u>西多摩飛行場</u>	多摩飛行場
p. 273 <5-3-4-6>解説文	新横田基地公害訴訟を	新横田基地公害訴訟（第1次）を
p. 275 「第4節 東京オリンピックとはむら」	聖火ランナーの区間の表記については、公式記録上の区間を「第1区間」「第2区間」、実際にランナーが走った区間を「1区間目」「2区間目」「3区間目」としています。	
p. 323 第2節 1-6 タイトル	<u>市内の忠魂碑</u>	<u>護国神社境内の日清日露戦役記念碑</u>



表紙の写真

都立羽村草花丘陵自然公園

羽村市郷土博物館横から、浅間岳（標高 235m）を登るハイキングコースは、片道約 20～30 分の道のりです。

野鳥のさえずりや木々の間を渡る風の音を聴きながら進んでいくと、途中に羽村市内を展望できるスポットや、コノハナサクヤヒメノミコトを祭神とする羽村神社があります。

傾斜がやや急なところもあるので、散策には足元に注意して、歩きやすい靴をお勧めします。

●草花丘陵と野生動物

標高 200～300m の草花丘陵には雑木林が広がっています。1953（昭和 28）年、都立羽村草花丘陵自然公園として都立公園に指定され、羽村市、福生市、あきる野市にまたがるハイキングコースは多くの市民に親しまれています。

昨年 7 月にセンサーカメラを草花丘陵自然公園に設置してからおよそ 1 年、草花丘陵に生息する野生動物を観察してきました。カメラには、タヌキ、キツネ、ノウサギ、アナグマ、テンやイタチ類、アライグマ、ハクビシン、イノシシなど哺乳類だけでも多種の動物が写りこんでいます。

出現頻度は種により差はありますが、草花丘陵には多くの動物が生息していることが分かります。カメラ越しにみた草花丘陵にすむ野生動物を見てみましょう。

●タヌキ、イノシシ、そして・・・

撮影当初より多く写りこんでいるのは、タヌキです。出現する時間は夜だけでなく昼間にもみられます。散歩中の河原で出会うという可能性は多いにあり得ます。もしかしたらご近所で見たとという方もいるかもしれません。昨年 11 月には子連れのタヌキが写っていました。

子連れといえば、今年 3 月のある日、イノシシ親子も写りました。イノシシの親子に関しては、市内でも目撃情報がありましたが、イノシシは主に日が落ち暗くなってから活動的に動いているようです。



▲イノシシ親子

全部で 5 頭います。見つけてみてください。

▼タヌキとイノシシの出会い



▼アライグマ（「伸びゆくはむら」第 12 号より）



こちらはアライグマです。最近は大都市周辺の農村地帯や里山地域に定着し増加していると考えられています。出現する頻度は深夜に高く直接出会うことはなかなか難しいかもしれません。

●カメラ越しの草花丘陵

親子で確認できたタヌキもイノシシも、豊かな環境や豊富なエサ場が繁殖に適しているのでしょう。

一昨年、羽村神社から市内を観察していた時、対岸の河原を疾走するイノシシを偶然見つけました。もしかしたら、センサーカメラに映っていたあの草花丘陵のイノシシのうちの一头かもしれない・・・、そんな想像が尽きません。

カメラから得られる情報は限られますが、貴重な瞬間を記録します。今晚にも新たな瞬間が記録されているかもしれません。草花丘陵のセンサーカメラによる撮影は今日も続いています。

部会の手帖



各部会の活動の様子を紹介します。
※4～6月の活動をお知らせします。

🔍 用語の解説

* ^{むなふだ}棟札…建築物の由来や、修繕の年月日、大工の名前などを記して、建物内部の高所に取り付けた、木製または銅製の板。建築物や地域の歴史史料として貴重なもの。

第1部会 ～原始・古代・中世～

縄文班では、資料編に掲載するため、郷土博物館等に収蔵されている市内の各遺跡から出土した縄文土器の写真撮影と土器の拓本、実測図等の作成やデジタルトレース作業を行いました。

中世班は、「資料編 中世編」掲載資料（拓本・実測図）の整理を行ったほか、鍛冶遺跡、吉祥寺跡、阿蘇神社の中世資料（瓦、^{むなふだ}棟札等）の資料調査を進めています。



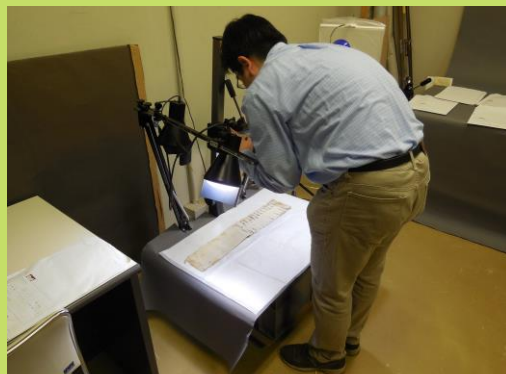
▲縄文土器写真撮影の様子

第2部会 ～近世～

今年度の資料編刊行に向けて、データの作成とともに最終的な調査を進めています。

市内では、郷土博物館の収蔵資料を中心に江戸時代の村の様子や運営に関するもの、玉川上水に関わる史料の閲覧・撮影を実施しました。市外の調査では、江戸時代はもとより、明治時代以降の羽村にも大きな影響を与えた、天明一揆に関する史料の調査を行っています。

古文書を活字化する作業のほか、史料から得られる情報を基に図表を作成しています。



▲史料撮影の様子



第3部会 ～近代・現代～

部会として次に刊行する資料編の構成骨子を話し合いました。資料編に掲載するための史料を選択していく必要があることから、史料の内容確認作業を行っています。

具体的には、郷土博物館や羽村市役所等において確認することのできる明治時代から平成にかけての史料をすべて洗い出し、近現代の羽村に関する史料のリストを作成しているところです。



▲史料リストの作成の様子



第4部会 ～自然～

気候班では市内の4地点での定点気温観測を3月に終え、市内の気温変化の分析をしています。3月末に咲き始めた桜をみました。台地上ではほぼ満開でしたが、多摩川沿いでは3～4分咲き程度でした。12～3月頃に台地上よりも多摩川沿いの日最低気温が低かったため、このことが多少なりとも影響しているのかもしれません。

地形・地質班は井戸調査結果から地下水位断面図の作成と考察を進め、生態班のセンサーカメラにはイノシシの親子が写りました。



▲多摩川のソメイヨシノ（3月27日）



第5部会 ～民俗～

昨年に引き続き、春祭りの調査を行いました。今年は、青梅線東側地域の町内会で開催されている春祭りを主な対象とし、皆様のご協力により、その特徴や工夫などを確認することができました。

また、郷土博物館に収蔵されている資料の調査が始まりました。昭和から平成にかけての生活道具などの多くは郷土博物館に寄贈されているので、それらの資料とあわせて聞き取り調査も進めています。



▲郷土博物館収蔵資料調査の様子

市史編さんの足あと



※①～⑤は部会の数字です。(例) ① ⇒ 第1 部会

月	日	できごと
4月	7日(土)	⑤ 春季例大祭宵宮調査
	8日(日)	⑤ 春季例大祭本宮調査
	12日(木)	② 市内資料調査(郷土博物館)
	15日(日)	羽村市史編さんだより第13号発行 ② 市外史料調査(青梅市郷土博物館)
	17日(火))	① 資料調査・写真撮影 (郷土博物館)
	25日(水)	
	18日(水)	② 市内史料調査(郷土博物館) ※以後、定期的に実施 ④ 市内調査
	23日(月)	④ 観測データの回収
	24日(火)	⑤ 聞き取り調査(個人)
	25日(水)	⑤ 聞き取り調査(個人)
	5月 1日(火)	⑤ 聞き取り調査(個人)
	9日(水)	② 市外資料調査(都立中央図書館)
	11日(金)	④ 市内資料調査(図書館)

月	日	できごと
5月	22日(火))	① 資料調査・写真撮影 (郷土博物館)
	31日(木)	③ 近現代史料リストの作成
	23日(水)	⑤ 聞き取り調査(個人)
	24日(木)	⑤ 聞き取り調査(個人)
	29日(火)	⑤ 市内資料調査(郷土博物館)
6月	1日(金))	① 資料調査・写真撮影 (郷土博物館)
	20日(水)	③ 近現代史料リストの作成
	14日(木)	⑤ 市内資料調査(郷土博物館)
	18日(月)	① 資料調査(阿蘇神社) ② 資料調査(阿蘇神社)
	21日(木)	⑤ 聞き取り調査(個人)
	21日(木))	① 資料調査・写真撮影(市内) ③ 近現代史料リストの作成
	25日(金)	

コラム

ちっとなべえ

第14回 「かわいいブタは美味しいブタ」

ストレス、たまっていますか？

ストレスがたまると肉質が低下しますよ～、あ、これは食肉の話。

かつて養豚が盛んだった羽村では、写真のブタが多く飼育されていました。種類は中^{ちゅう}ヨークシャー種。チャームポイントはぴんと立った耳に、しゃくれあがった鼻。

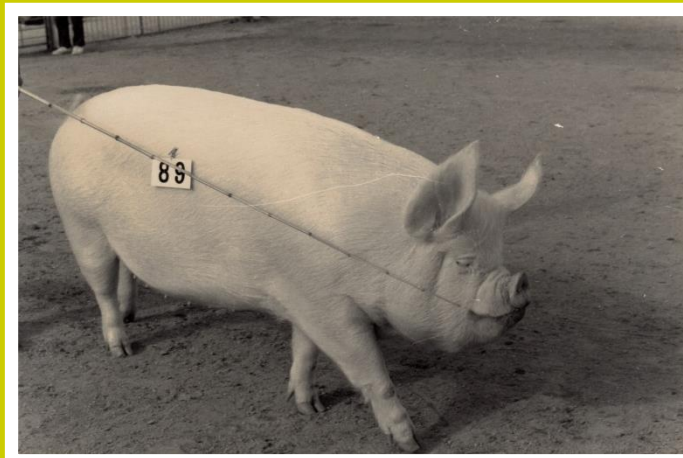
写真は共進会に出品された中^{ちゅう}ヨークシャー種です。ゼッケン「89」をつけ、飼育者(出品者)が持つ竹棒の指示にあわせて歩行審査の真っ只中。ハイヒールを履いたような足先、歩く姿はさながらランウェイのモデルのよう。そして何とも穏やかな表情。審査項目には“顔貌良く、目がやさしくキイキ”なんていうものもあるのです。

“血統”、“餌”とならび、“ストレスのない育て方”も美味しい肉の大事な条件なんです。



ちなみにブタは、イヌのような賢さとネコのような気まぐれさを合わせ持つ動物。気に入らなければテコでも動かない頑固さも 있습니다。この巨体を竹棒1本で動かすには、飼育者との間に信頼関係があつてこそ。だからこんなにも穏やかで良い顔をしているんですね。

(S.N 記)



※「ちっとなべえ」とは、羽村の昔ことばで「ちょっと、少しばかり」という意味です。